



**結婚前**

結婚前には、まだ「お姫様」のイメージで、華やかな服装で過ごしていた。しかし、結婚後には、より現実的な生活を送るようになる。この時期には、彼女の服装もより実用的なものになる。

**結婚後**

結婚後には、より現実的な生活を送るようになる。この時期には、彼女の服装もより実用的なものになる。また、彼女の髪型もより実用的なものになる。



**革命前**

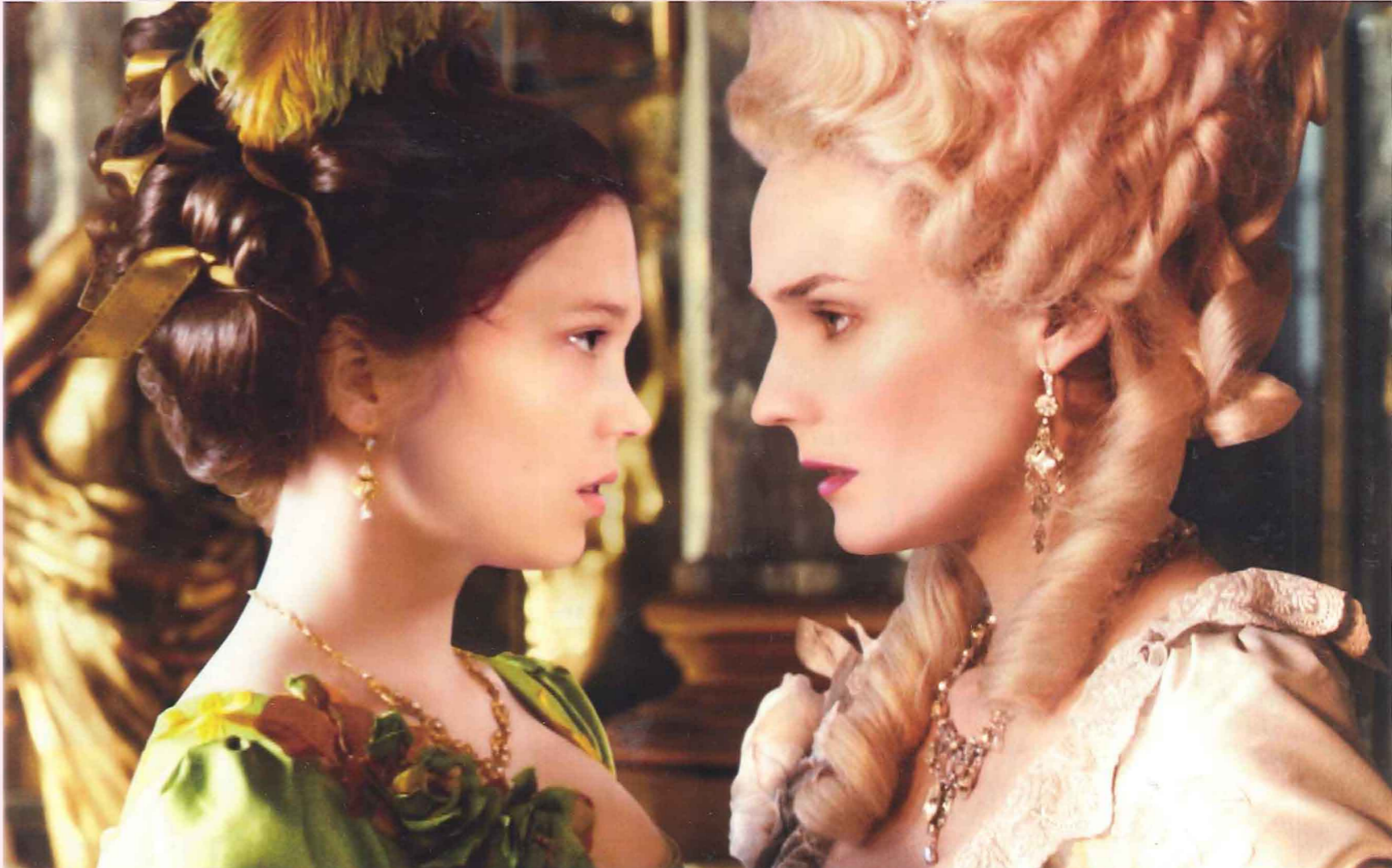
革命前には、まだ「お姫様」のイメージで、華やかな服装で過ごしていた。しかし、革命後には、より現実的な生活を送るようになる。

その「Marie Antoinette」な人生を再現した「Marie Antoinette」名作集

- Marie Antoinetteの香水
- Marie Antoinetteの髪飾り
- Marie Antoinetteのドレス
- Marie Antoinetteの化粧

美容皮膚科・美容内科医 **中野あおいさん**

Marie Antoinetteを象徴するのはやはり「立派な最期」。深くギロチンに上り、自信と誇りを失わず王妃としての一生を遂げた姿には、尊敬の念を抱くものです。浪費家、ワガママなイメージがあるけれど、プチ・トリアノン宮殿では貧しい農夫を雇い、孤児を育てるといった、優しく温かな女性像も伝わります。ファッションにおいてはドレスや髪型だけではなく、動物系が中心だった香水を、バラやハーブを使った植物系のもに替えるなど、今につながる流行を生み出した、現代のファッションリーダーでは敵わない優れた感性を持った人。どの面を切り取っても、女性は「憧れ」を持たざるを得ないのだと思います。



**なぜ、Marie Antoinetteは女心を刺激する？**

「Marie Antoinetteに別れをつけて」 Marie Antoinetteに心酔する宮廷朗読系の少女の目から、フランス革命を描いた物語。少女が王妃への愛を誓ったとき、ある決断を命じられる。12月15日(土)より、TOHOシネマズ シャンテ、Bunkamuraル・シネマ他全国順次ロードショー

1755年11月2日。Marie Antoinette・ジョゼファ・ジャンヌ・ド・ロレーヌ・ドートリシュは生まれた。14歳で異国に嫁いだそのひとは、華やかに生き、激流のような革命に飲み込まれ、処刑される。1793年のそのときから、2012年の今日まで、彼女を形容する言葉は「浪費家」「王家の品位を失墜させた悪女」そして「悲劇の王妃」etc.……。古今東西、描かれ続ける「Marie Antoinette」の魅力に迫ろう。

その魅力はどこに？ 「Marie Antoinette」の虚像と実像に迫る

取材・文／岩熊純子

Marie Antoinetteのファッション

- Marie Antoinetteの髪型
- Marie Antoinetteのドレス
- Marie Antoinetteの化粧

Marie Antoinetteのファッションについて詳しく解説する記事の抜粋。彼女のファッションは、当時のフランス社会を反映している。また、彼女のファッションは、現代のファッションにも大きな影響を与えている。

Marie Antoinetteのファッションについて詳しく解説する記事の抜粋。彼女のファッションは、当時のフランス社会を反映している。また、彼女のファッションは、現代のファッションにも大きな影響を与えている。